

電力技術研究会 ～退任顧問への感謝状贈呈式～

5月11日に開催された顧問会・委員会の後、電力技術研究会発足以来ご尽力頂いた顧問のご退任にあたり、感謝の意を表して感謝状の贈呈式が執り行われました。

今回退任された顧問は11名で、贈呈式には7名の方々にご出席頂きました。

最後のごあいさつから、この研究会は産学連携によるニーズとシーズの交換の場であるとともに次世代をリードする人材を送り出せる貴重な場であり、その重要性を再認識した日でありました。



退任顧問：左から武藤、宮地、市川、山本、福地、岩田、松島先生

退任顧問を代表してごあいさつされた武藤先生

退任顧問の一覧

退任顧問の一覧		主な活動と出身専門部会
武藤 三郎	名古屋工業大学名誉教授	昭和34年の研究会発足にご尽力。以降40年以上にわたりご指導頂いた。
宮地 巖	愛知工業大学客員教授	
市川 真人	名古屋大学名誉教授	系統運用、電気応用、エネルギー専門部会を中心にご指導頂いた。
山本 賢三	日本原子力産業会議顧問	日本原子力産業会議常任相談役としてご活躍のなか電源専門部会でご指導頂いた。
杉山 幸男	名古屋大学名誉教授	化学工学が専門、環境専門部会
桐原 朝夫	名古屋大学名誉教授	原子炉材料学が専門、電源専門部会
福地 知行	静岡県立大学名誉教授	環境工学が専門、環境専門部会
坂本 弘	三重大学名誉教授	医療衛生学が専門、環境専門部会
岩田 幸二	中部大学副学長	系統運用、電気利用専門部会
松島 二良	三重大学名誉教授	生物学が専門、電気利用専門部会
宮野 秋彦	名古屋工業大学名誉教授	建築設備工学が専門、電気利用専門部会

退任顧問インタビュー

宮地 巖

「研究会発足時からご活躍頂いたなかで、最も印象に残っていることはどのような事でしょうか？」



机上の議論ではなく、常に現場で教えて頂いたことです。当時は現場機器を使用した研究が芽ばえ始めた頃であり、現場技術に立脚した学術研究と応用に大いに役立ちました。これら中部電力で習った技術を、中部だけでなく東京、関西から日本全体そして世界のCIGREへと展開することができました。研究会という形で先生方と電力会社がこのようなグループを作っていることは、他に類例を見ないことであり、中部電力は地域の先生方そして社内の技術者を大事にしていることが最大の特長だと思います。

電力技術研究会専門部会シリーズ④ 電力施設専門部会

シリーズ第4回は電力施設専門部会です。電力施設専門部会は、電力技術研究会設立と同時に発足した発変電専門部会と送電専門部会を、昭和50年8月に統合した部会で、メンバーは工務部技術開発グループ知屋城主査のもと大学関係委員6名、企業関係委員3名に、当社委員11名を加えた21名です。その活動内容は、流通設備を対象とした既設設備の延命化、増容量化など保守運営面におけるコスト低減技術、環境保全技術、ならびに将来を見据えた設備の更なる合理化に関する研究開発についての議論を中心とした意見交換と情報交換です。

4月24日の第79回部会では、まず今年度の活動方針を承認し、工務部門における平成13年度の研究開発方針と研究概要について説明を行いました。また引き続き行われた情報交換では6件の研究が紹介され、そのうち電力技術研究所電力G送変電Tから報告された「特別高圧用CVケーブルにおける水トリー劣化診断技術の開発」に対し、水トリーの検出感度に関するアドバイスを多数頂いたほか、大久保委員から紹介された「部分放電測定を用いたガス絶縁電力機器の破壊予知と寿命診断に関する研究」では部分放電の測定技術等について多くの質疑が交わされるなど、活発な意見交換が行われました。



社外委員の紹介

左より、鈴置、加藤、中村、松岡、堀、大久保の各専門委員